

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた地域プラットフォーム形成シンポジウム
第9回ワークショップ事後アンケート 集計結果

2023年7月
公益財団法人 全日本科学技術協会

このたびは、「新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた地域プラットフォーム形成シンポジウム」第9回ワークショップにご参加くださりありがとうございました。

JARECは、これからも必要な感染対策など「PREPAREDNESS」について考え、広域・産学官連携してのネットワーク構築の「場」として、ワークショップを開催して参ります。

つきましては、本アンケートへのご協力をお願い致します。

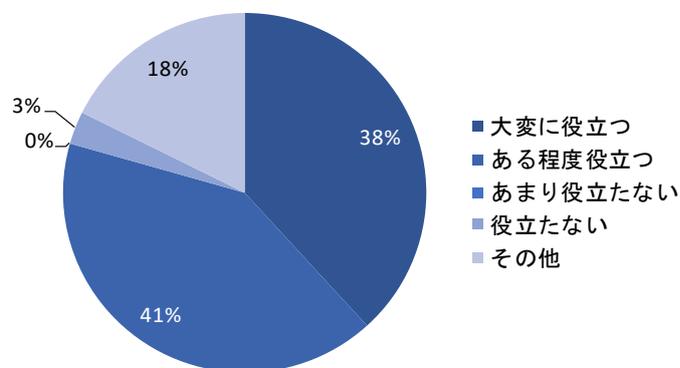
事後アンケート（回答総数 34名）

1. 基調講演についてお伺いいたします。

基調講演 I 「高齢者における新型コロナウイルス感染症重症化傾向とその問題点（コロナ禍を振り返って）」島根大学 教授 渡部 広明 氏

1-1 島根大学の渡部先生には、過去の経験を振り返りながら、高齢者のコロナ感染による重症化の傾向とその問題点について解説頂きました。講演内容は、皆様の業務や疑問点の解決などに役立ちましたか。

	回答数	構成比
大変に役立つ	13	38%
ある程度役立つ	14	41%
あまり役立たない	0	0%
役立たない	1	3%
その他	6	18%
無回答	0	—
計	34	



<その他の意見>

- ・ コロナも、必要な医療機能も時間とともに変わっていった。
- ・ 内容は、DMATの活動が中心で、重症化の傾向や問題点の解説とは感じなかった。

1-2 具体的にどのような業務や疑問点の解決などに役立ちましたか（「役に立たない」と回答された方は、その理由をお聞かせください）。

- ・ 危機管理システムの医療システムへの導入が非常に役立ったことである。
- ・ 多くのことは理解していた。
- ・ 健康危機対処計画策定に参考になりました。
- ・ 島根地域限定であり、新しい情報がほとんど得られなかった。

- ・ 自然災害、生物災害との認識、災害救助法に代わり得る新型インフルエンザ措置法は？
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行はは災害であったこと。高齢者のオミクロン株での死亡者の増加は災害関連死であった可能性があること
- ・ 入院調整フローを作成されたということが目からウロコであった。ただ闇雲に病院にあたるのではなく、きちんとシステムティックにやるのが正しいと理解した。
- ・ 陽性者が発生した福祉施設への対応
- ・ 統計における数値の捉え方について。
- ・ 高齢者施設への対応について。
- ・ 人口70万人の県の対応（広域入院調整本部の対応等）
- ・ 健康危機対処計画策定に役立った
- ・ 高齢者施設への支援方法を考えるうえで参考になった
- ・ 今後の発生状況の予測ならびに対応策の策定。
- ・ 新興感染症対応は、災害発生時と同様に組織として対応計画を作成・改定し、訓練等を繰り返さなければならないと、改めて思い起こすことができました。
- ・ 高齢者の重症の状況が分かりました。重症化抑制の取組みが重要であることが分かりました
感染急拡大期における発症者の分類や関係機関との連携構築などが参考になった。

1-3 その他、ご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。

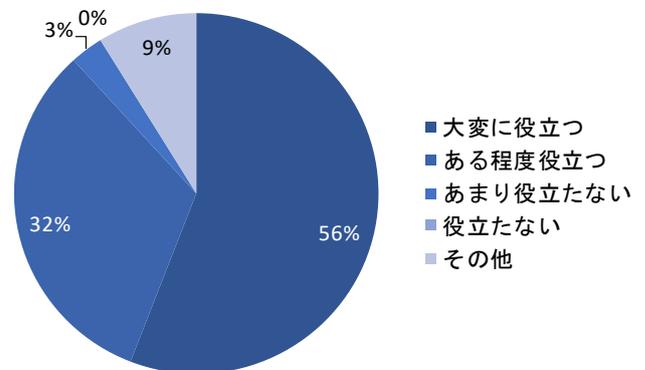
- ・ 感染者数、死亡者数、等の数値には現れぬ内容に気を配る必要があること。
- ・ 講義資料について、講師の許可がえられたいただくことが可能でしょうか。参考にしたいことがたくさんありますが、メモでは残りませんので、よろしく願いいたします。
- ・ 渡部先生の資料を提供いただけますと幸いです。

基調講演Ⅱ「新型コロナの現状と今後の対策」

東京医科大学病院 渡航者医療センター 特任教授 濱田 篤郎 氏

1-4 東京医科大学病院の濱田先生には、新型コロナの現状と今後の流行傾向について、これからも必要な感染対策について解説頂きました。講演内容は、皆様の業務や疑問点の解決などに役立ちましたか。

	回答数	構成比
大変に役立つ	19	56%
ある程度役立つ	11	32%
あまり役立たない	1	3%
役立たない	0	0%
その他	3	9%
無回答	0	
計	34	



1-5 具体的にどのような業務や疑問点の解決などに役立ちましたか（「役に立たない」と回答された方は、その理由をお聞かせください）。

- ・ 新型コロナは従来の医療制度と与えられた臨床機能では対応できない内容（例えば感染者数の急増や重度の患者への ECMO 装置）を持っていた。日本のパンデミック対策の弱点が見えた。
- ・ 最新の情報や重要事項が紹介された。
- ・ 今後の流行予測
- ・ コロナの波や対処方法など、想定内のことだったが、覚悟ができた。マスクの着用や抗体保有率等、海外と比較し、日本の特徴を改めて認識した上で、今後の対応を考えられるきっかけとなった。
- ・ ほとんど知っている一般的な情報であった。
- ・ コロナ初発発生に関する分析がおもしろかった。
- ・ 雨が飛沫感染型呼吸器感染症に関連か？寒冷地での冬場と同様か。
- ・ 流行の状況の記録が必要であったこと。コロナ対応の変更についての記録が必要であったこと。
- ・ 一連の全体像を改めて認識しました
- ・ コロナの波の収束には局所的集団免疫及び行動変様が関与することはわかっていたが、それに加えて気候も重要な要素になることがよくわかった。
- ・ 今後の新型コロナ流行予想やワクチン接種について聞くことができ、今後の施設対応に活かすことができた。
- ・ これまでの流行の推移について改めて整理出来た。
- ・ ウイルスの発生についてのお話が興味深かった。
- ・ 世界的な流行の状況・感染免疫調査、日本では免疫獲得率が低く今後も流行が危惧されること。今後も未知のウイルスの新興感染症の発生が予兆されること。
- ・ 今後のコロナ流行予測
- ・ 今後の感染拡大に備えての対応の仕方など考え方を学ぶことができた
- ・ 根本的な封じ込め策。
- ・ 現在、通常業務の対応に戻って来てはいるものの、COVID-19 に関する相談が徐々に増加していました。今回の講演を拝聴し、感染者数が増加しているということに加えて、今後の発生動向予測について把握することができたことはとても有意義でした。
- ・ 現状の位置づけが良く理解できました。
- ・ 日本の新型コロナウイルス抗体保有状況や流行の予測、オミクロン株の変異についてが興味深かった。

1-6 そのほか、ご意見・ご感想等があればお聞かせください。

- ・ 可能であれば、期間限定でもいいので、アーカイブ視聴ができると大変ありがたいと思いました。
- ・ 患者調査の業務や調査変更などは、忙しさで記録ができなかったこと。県職員は異動があり、コロナ対応をした保健所でない所属に4月から配属され、過去の対応が不明で困ることがある。
- ・ 濱田先生のご講演を視聴することができて大変勉強になりました。
- ・ 保健所内で情報共有させていただきました。ありがとうございました。
- ・ 感染率、免疫獲得率がまだ高くないのでしっかりと予防する必要性を感じました。

1-7 今後お聞きになりたい内容がございましたらお聞かせください。

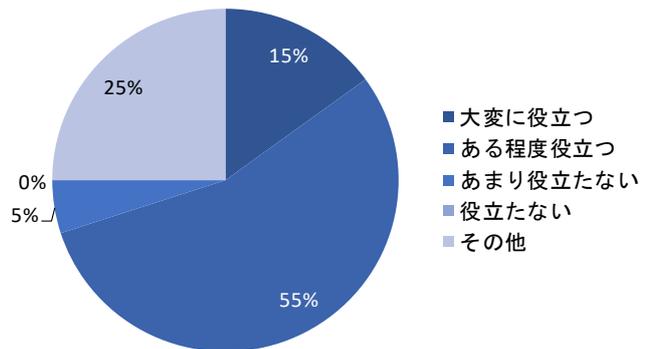
- ・ 今後、五類に移ってもこれから夏にかけて沖縄など雨の多い地域では増え続ける可能性がある。室内にいる確率が高まること、お盆で人が集まるからである。
- ・ コロナを初め感染症やがんワクチンの開発状況
- ・ システムを含めて、海外での取り組み状況には興味があります。
- ・ 保健所で作成する健康危機対処計画について、今回のコロナ災害を踏まえた作成のポイント
- ・ 新型コロナウイルス感染症の今後の流行予測とその対応（今回のような内容を、今後も変化があった際に）
- ・ 新型コロナウイルス感染症のような感染症流行時の地域での医療と介護、行政との連携について

2. ワークショップについてお伺いいたします。

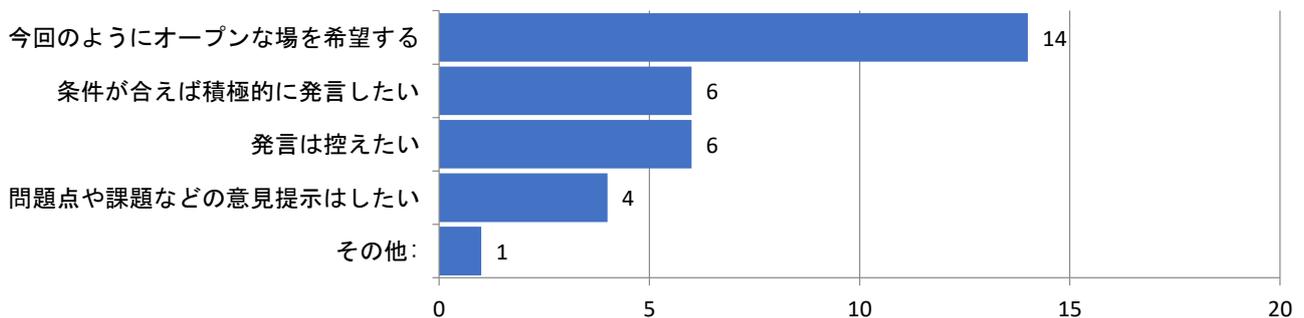
※ワークショップは、地方衛生研究所・保健所等の機関の方、限定でご参加頂きました。

2-1 ワークショップでは、ご参加の皆さまからのご質問や課題について意見交換を行いました。ワークショップの内容は、皆様の業務や疑問点の解決などに役立ちましたか。

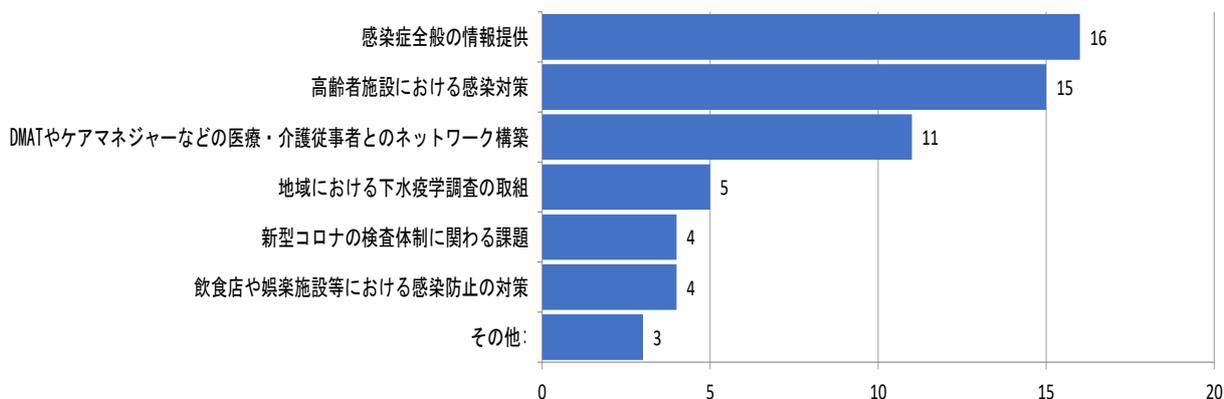
	回答数	構成比
大変に役立つ	3	15%
ある程度役立つ	11	55%
あまり役立たない	1	5%
役立たない	0	0%
その他	5	25%
無回答	14	—
計	34	



2-2 今後のワークショップの開催形態について、当てはまるものにチェックして下さい（複数回答可）。



2-3 今後のワークショップで議論したいテーマについて、当てはまるものにすべてチェックして下さい（複数回答可）。



2-4 その他、ご意見・ご感想等があればお聞かせください。

- ・ 高齢者福祉施設のクラスターのご質問については、嘱託医の役割が非常に重要と考えております。PCR 検査、発生届出、治療まで対応いただいた嘱託医もあればいただけなかった施設もあり、平常時から契約も含めて体制を整備する必要があると思われまます。
- ・ 同じことで悩む人と情報共有ができてよかった。
- ・ 地方衛生研究所で行うゲノム解析について、各地における実態が垣間見えて参考になった。

3. ワークショップ全体を通してのご感想やお気づきの点などがございましたら、以下へご記入ください。（自由記述・全角 200 文字以内）

- ・ 時間が無くてワークショップを拝聴できませんでした。
- ・ 講義以外にも進行がスムーズで参考になると思いました。
- ・ とても興味深い内容でしたので、オンデマンド配信をしていただけると非常にありがたいです。
- ・ 今回は業務で参加できませんでした。業務で参加には県庁の感染症対策部署への案内をしていただき、保健所への参加の依頼等がありましたらありがたいです。
- ・ 仕事の都合により、ワークショップにじっくり参加できなかったため、広く公開でなく申込者限定のような形で構いませんので、録画の配信がありますとありがたいです。
- ・ ご講演いただいた先生方や皆さんの意見交換から色々と学ぶことができたと考えていましたので、何卒よろしくお願いいたします。
- ・ 内容の濃いワークショップで大変勉強になりました。全国の方々と一同に会することができ贅沢な機会だと思います。
- ・ 高齢者福祉施設について、嘱託医の役割が大切と考えます。検査、発生届、治療までを担っていただいた施設では、重症化率も低減できています。日頃からの契約を含めて見直す必要があると思います。
- ・ 1, 運営がとてもスムーズだった。 2, 講演テーマ・内容が良かった。

4. JAREC は、今後もワークショップの開催を予定しております。次回以降の開催に際して、希望する講演や事例紹介などのご要望等がございましたら、ご意見をお寄せ下さい。

(自由記述・全角 200 文字以内)

- ・ 大変効果的な情報交流になっていると思います。組織ごとに交流が出来ない日本の弱点を補っていると思います。
- ・ コロナの振り返りと健康危機対処計画の作成のポイント
- ・ 感染症対応を担当する保健所職員として、感染症全般の情報を得られ、全国の自治体の取組や課題を共有いただける場があると嬉しいです。
- ・ 医療従事者（医師、看護師など）の働き方改革・医療現場（病院など）での生産性向上における課題や、課題解決事例紹介。
- ・ 感染症危機管理として地方衛生研究所が限られた経済的・人的資源のなかで取り組むべきこと

以上